

知らない音は聞き取れない

我々の脳には、知らない音を聞いたとき、知っている音に無意識のうちに置き換えてしまう性質があります。日本人がよく知っている音は「カタカナ」です。つまり、**多くの日本人は、英語を聞いたときにカタカナに置き換えて聞いています**。知っている単語ばかりの英語でさえ聞き取れないのはこのためです（第1章「なぜ聞き取れないのか？」でくわしく解説します）。

これを解消するためには、**英語の正しい音を知る必要があります**。そのために本書の第2章～第5章の「発音バイエル」では、英語の正しい「発音」をていねいに練習します。やり方を間違えなければ、1カ月程度でひと通りの発音ができるようになり、2～3カ月程度でかなり上達します。この段階でネイティブスピーカー並の発音を身につけてしまう人もいるでしょう。とにかく、しばらくは毎日20～30分、時間をとって練習してみてください。

ここまでで、リスニングが格段に楽になることを実感できるはずです。正しい発音ができるようになると、英語を聞いたときに、話している人の口の形が頭に浮かぶようになります。自分の発音できる音（知っている音）が増えることで、聞き取りにも効果がでるのです。そして、聞き取りの力がつくと、発音をさらに改善することができます。このいい循環をつくり出せたら、もうこっちのものです。その後は、楽しみながら英語力が上がっていきます。

リスニング力とは？

とはいえ発音練習だけでは、ニュースやドラマの英語を100%聞き取れるようにはなりません。そこで、英語の「リスニング力」について考えてみましょう。英語のリスニング力とは、以下の2つの力を総合したものです。

- ① 英語の「音」を聞き取る力
- ② 聞き取った英語の単語や文法を理解できる力

本書の前半では、おもに①の内容を取り上げます。それができたら、②にあるように語彙と読解力がカギになります。

そのために第7章「英文読書のすすめ」では、ペーパーバックでの読書を通じて語彙や読解力を身につける方法を説明します。英語を不自由なく聞き取れるようになるには、発音やリスニングに加えて、語彙、イディオム、文法などを同時に学習していくことも必要なのです。

本書の対象読者

本書が対象にする読者は、英語を学ぶすべての人です。

初級者の方も心配することはありません。中学1年程度の英語力があれば、十分はじめることができます。正しい発音を最初に覚えると、その後の英語学習の効率はぐんと高まります。たとえば、新しい表現や単語に出会ったときに、最初から正しい発音で覚えることができるので、あとで音を聞いてもすぐにわかりますし、話しても通じます。また、くわしくは第1章に書きますが、英文を読むときにも効果があります。

ですから、学習の初期にこの本に出会ったあなたはとても幸運です。これから英語をはじめようという方は、まずは発音に力をいれてみてほしいと思います。

もちろん、上級者の方にもおすすめできます。とくにリスニングで行き詰まりを感じている人は、練習をかさねることでブレイクスルーを体験できるでしょう。あなたのこれまで蓄積した英語力を、もっと生かしてもっと使えるものにしませんか。

年齢も問いません。正しい発音は、何歳からでも身につけることができます。たしかに若い方が有利な面はあるかもしれませんが、年齢を重ねたりの知識や経験でカバーしてはいかがでしょうか。試行錯誤や自分なりの学習ペースの見つけ方に関しては、年長者は若者より有利な立場にあると思います。